

失った信頼を再び回復するために、再発防止策の遂行と 企業価値向上に全身全霊を傾け、「神戸製鋼は変わった」と 認めていただけるよう不退転の決意をもって変革に取り組みます。

株主の皆様には、格別のご高配を賜わりありがたく厚く御礼申し上げます。

本年4月1日に、私、山口貢が代表取締役社長に就任いたしました。果たすべき責務の重さを痛感しておりますが、今後の社業の発展に全力で取り組む所存でございますので、何卒宜しく願い申し上げます。

はじめに、昨年10月8日に、当社グループにおける品質に関わる不適切行為を公表して以降、株主の皆様には多大なるご心配とご迷惑をお掛けしておりますこと、改めて深くお詫び申し上げます。

ものづくりを生業とする当社グループが、品質に関わる不適切行為を行っていたことは、あってはならないことです。二度とこのようなことがないよう、ガバナンスや企業風土の抜本的な改革と再発防止に向けた取り組みを確実に推し進めていくことが私の最大の責務であり、当社グループが再び信頼を回復するためには欠かせない取り組みであると重く受け止めております。

また、私自身が、企業理念である「KOBELCOの3つの約束」やこれを実現させるための社員の行動指針である「KOBELCOの6つの誓い」に込められた思いや趣旨を社員に直接語り掛け、社員と対話することで、信頼回復に向けた取り組みの先頭に立ちます。

当社グループの全役員・社員が結束し、「神戸製鋼は変わった」と認めていただけるよう不退転の決意をもって変革に取り組みでまいります。

当期の業績および当期の配当について

さて、当社グループの当期の連結業績につきましては、後述の「業績のご報告」でご説明しておりますとおり、鉄鋼事業において自動車向けの需要が堅調だったこと、建設機械において中国でインフラ投資により需要が増加したことなどから、売上高は前期に比べ1,852億円増収の1兆8,811億円、経常損益は前期に比べ902億円改善の711億円の利益、親会社株主に帰属する当期純損益は前期に比べ862億円改善の631億円の利益となりました。

この結果を受け、当期の期末配当につきましては、不適切行為に係る影響を含め、今後の財政状態、業績の動向、先行きの資金需要等を総合的に勘案した結果、1株につき30円とさせていただきます。株主の皆様には、何卒ご理解を賜りたいと存じます。

今後の取り組みについて

当社グループが現在の中期経営計画で目標と見定める「素材系事業、機械系事業、電力事業を3本柱とする成長戦略」そ

のものは、これまでと何ら変わるものではありません。「品質」に関わるガバナンス・マネジメント・プロセスについて変革と再構築を進めると同時に、ビジネスチャンスを見逃さず、中期経営計画の達成に向け取り組んでまいります。

世界的な環境規制の高まりを背景とした、輸送機の軽量化の動きは、鉄鋼やアルミ・銅、そして溶接に代表される接合ソリューション技術などを有する当社グループにとって、間違いなく追い風であり、こうした当社グループならではの技術・製品・サービスをお客様へ積極的にご提案し、成長を目指してまいります。加えて、機械系事業では、エネルギー・インフラをターゲットに、圧縮機事業の戦略的拡大や水素ビジネスなど、将来の需要拡大に備えた取り組みを加速させてまいります。電力事業については今後の安定収益源と位置付けており、盤石な経営基盤の一翼を担うべく現在取り組んでいるプロジェクトを着実に進めてまいります。

当社グループは、安全、環境、防災に加え、コンプライアンスの遵守が、企業が存在する上での土台であり基礎であるということに改めて肝に銘じ、信頼回復に努め、株主の皆様のご期待に沿えるよう、また、企業価値の向上に向け全力で取り組んでまいりますので、株主の皆様におかれましては、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますとともに、当社グループをご支援いただきたく、何卒宜しく願い申し上げます。

平成30年6月

株式会社神戸製鋼所
代表取締役社長

山口 貢

